

パブリックな存在としての遺跡・遺産

— 平成24年度 遺跡等マネジメント研究集会(第2回)報告書 —

“Archaeological Sites and Cultural Heritage in Public”

The Reports of the Management Research Symposium for Cultural Sites (the 2nd)

2013

独立行政法人 国立文化財機構

奈良文化財研究所

Nara National Research Institute for Cultural Properties

パブリックな存在としての遺跡・遺産

— 平成24年度 遺跡等マネジメント研究集会(第2回) 報告書 —

目次

グラビア 遺跡・遺産のパブリック Curious Links between Heritage and the Public

凡例

I. 研究報告 A

- [1] 遺跡管理における住民参加の意味を問う —国際協力の現場から— …… 004
関 雄二 [国立民族学博物館/教授]
- [2] 公共財としての遺産 —歴史的建造物の公共性について— …… 010
ウーゴ・ミズコ [UGO Mizuko: 学習院女子大学/准教授]
- [3] 遺跡・遺産は地域住民にどのように認知されるのか
—マイクロネシア連邦ナン・マドール遺跡の事例— …… 016
石村 智 [奈良文化財研究所国際遺跡研究室/研究員]
- コラム: 残された教会、残されなかった教会—福島における被災教会堂のゆくえ— …… 021
石村 智 [奈良文化財研究所]
- [4] パブリック、遺産、文化財、考古学の関係について …… 022
松田 陽 [英国・イーストアングリア大学/講師]
- [5] 「パブリック」で考える歴史的市街地空間と人間の係わり方
—世界遺産マラッカとジョージタウンの比較から— …… 028
張 漢賢 [CHONG Hon Shyan: 鳥取環境大学/教授]
- [6] 産業遺産の公共性: その価値は何から生じるのか? …… 036
岡田 昌彰 [近畿大学/教授]
- [7] SEEDS OF FURUSATO ~人々の心にある遺産~ …… 042
土井 祥子 [公益財団法人日本ナショナルトラスト/主任研究員]
- プレゼンテーション画像 …… 046

II. 研究報告 B

- [a] 世界遺産ジョージタウンにおける「パブリック」への介入と参画 [原文/日本語訳] …… 086
ジャネット・ピライ [Janet Pillai: マレーシア科学大学/准教授]
- [b] 遺跡・遺産が伝える先住民族の歴史と文化 …… 098
岡田 真弓 [北海道大学アイヌ・先住民研究センター/博士研究員]
- [c] 歴史・文化を「つたえる」 “まなび”にまつわる取り組みから思うコト …… 108
渡邊 淳子 [奈良文化財研究所企画調整部/アソシエイトフェロー]
- [d] ローカルからはじめる遺跡・遺産～太宰府市民遺産 …… 118
城戸 康利 [太宰府市教育委員会/文化財課副課長]

[e] 遺跡の「資料化」と「遺産化」	124
魚津 知克 [大手前大学史学研究所／主任]	
[f] 遺跡・遺産の経験と意味	128
平澤 毅 [奈良文化財研究所文化遺産部／景観研究室長]	
コラム：遺跡と盗掘とパブリック	134
田代亜紀子 [奈良文化財研究所企画調整部／アソシエイトフェロー]	

Ⅲ. 資料A

国際憲章等にもみる遺産のパブリック	136
菊地 淑人 [奈良文化財研究所文化遺産部／アソシエイトフェロー]	
資料 パブリックな存在としての遺産に関する重要憲章・勧告・宣言（英文）	138

Ⅳ. 資料B

平成24年度遺跡等マネジメント研究集会（第2回）の開催成果について（平澤毅）	152
1. 開催概要	154
2. 参加者・事務局名簿	155
3. 開催状況	156
4. 記録（趣旨説明，討論 a，講演・報告の要約，討論 b）	157

Summary Record of the Symposium / Table of Contents	212
---	-----

凡 例

- 1 本書は、平成24年（2012）12月21日（金）及び22日（土）に、平城宮跡資料館講堂において開催した「遺跡等マネジメント研究集会（第2回）『パブリックな存在としての遺跡・遺産』」（以下、「研究集会」という。）の成果を取りまとめた報告書である。
- 2 「研究集会」は、「遺跡等の保存管理・整備等に関する調査研究」の一環として、奈良文化財研究所の文化遺産部遺跡整備研究室が企画・主催し、小野健吉・平澤毅・青木達司が担当した。参加者は、地方公共団体職員・研究者・実務者のほか、遺跡等保護の関係者など、100名余りであった。
- 3 本書において、研究報告については平成25年度に執筆等を依頼したもので、新たに寄稿いただいた部分の所属等については平成25年（2013）12月時点のものとしているが、開催記録に該当する部分の所属等については「研究集会」開催当時のままとした。
- 4 本書は、「グラビア」、「Ⅰ. 研究報告A」、「Ⅱ. 研究報告B」、「Ⅲ. 資料A」及び「Ⅳ. 資料B」の5部構成とした。
- 5 「グラビア」では、本書執筆者の協力を得て、遺跡・遺産とパブリックの興味深い関係を示す事例を掲載した。
- 6 「Ⅰ. 研究報告A」では、講演・報告者によって「研究集会」における検討成果を踏まえつつ取り纏められた論考とともに、「研究集会」開催時に使われたプレゼンテーション画像の一部を収録し、「Ⅱ. 研究報告B」では、「研究集会」の主題に関連する新たな論考を収録した。
- 7 「Ⅲ. 資料A」では、遺跡・遺産のパブリックに関連する国際会議・憲章等とその総括的解説を付与し、「Ⅳ. 資料B」では、「研究集会」開催の記録として、開催概要、参加者名簿のほか、「趣旨説明（12月21日）」、「討論 a（12月21日）」、「講演・報告の総括（12月22日）」、「討論 b（12月22日）」の記録を掲載した。なお、討論等の記録については、録音から音声起こししたものを参照しながら、平澤毅がまとめ、各発言者の校閲を経たものである。各発言における言い回し等については、その趣旨の変更を伴わない範囲で修正を加えた部分がある。また、このうち、「討論 b」については、報告書の取りまとめに当たり、質問票を提出しつつも、討論に欠席された質問者に対して、討論の記録 draft を送付して、新たに示されたコメントも付記した。
- 8 巻末には、英文で、「研究集会」の摘要及び本書の目次を付した。
- 9 「凡例」及び「開催成果について」（Ⅳ. 資料B）の英訳及びジャネット・ピライ氏の英文論考の日本語訳については、株式会社テクボウの協力を得た。なお、ジャネット・ピライ氏への寄稿依頼及びその論考内容の監修については張漢賢氏の協力を得た。
- 10 本書の編集は平澤毅が行った。

研究集会開催実績

■遺跡整備・活用研究集会（2006～2010年度）

第1回 平成19年（2007）1月25日（木）・26日（金）

テーマ「教育面に関する活用」

第2回 平成20年（2008）1月25日（金）・26日（土）

テーマ「遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度」

第3回 平成21年（2009）1月30日（金）・31日（土）

テーマ「埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題」

第4回 平成22年（2010）1月28日（木）・29日（金）

テーマ「遺跡内外の環境と景観 ～遺跡整備と地域づくり～」

第5回 平成23年（2011）1月21日（金）・22日（土）

テーマ「地域における遺跡の総合的マネジメント」

■遺跡等マネジメント研究集会（2011年度～）

第1回 平成24年（2012）2月16日（木）・17日（金）

テーマ「自然的文化財のマネジメント」

第2回 平成24年（2012）12月21日（金）・22日（土）

テーマ「パブリックな存在としての遺跡・遺産」

The Research Symposiums on Preservation and Utilization of Historic Sites

(Organized by Nara National Research Institute for Cultural Properties, from Fiscal 2006 to 2010)

1st January 25 Thu.- 26 Fri., 2007

Utilization of the Archaeological Site from the Viewpoint of Education

2nd January 25 Fri.- 26 Sat., 2008

Preservation and Utilization of Historic Sites, and the Specified Management System under the Local Autonomy Law

3rd January 30 Fri.- 31 Sat., 2009

Current Issues regarding *In Situ* Exhibition of Archaeological Features from a viewpoint of
Preservation and Utilization of Buried Cultural Properties

4th January 28 Thu.- 29 Fri., 2010

Environments and Landscapes of Inside and Outside of Cultural Sites; Sites Management and Regional Promotion

5th January 21 Fri.- 22 Sat., 2011

Comprehensive Management of Cultural Sites and Heritage

Management Research Symposium for Cultural Sites

(Organized by Nara National Research Institute for Cultural Properties, from Fiscal 2011)

1st February 16 Thu.- 17 Fri., 2012

Management of Natural Heritage as Cultural Properties

2nd December 21 Fri.- 22 Sat., 2012

Archaeological Sites and Cultural Heritage in Public

“Archaeological Sites and Cultural Heritage in Public”

The Reports of the Management Research Symposium for Cultural Sites (the 2nd)

Issued on 21 December 2013

Edited and Published by
Site Management Research Section,
Department of Cultural Heritage,
Nara National Research Institute for Cultural Properties,
(Independent administrative agency) National Institute for Cultural Heritage
2-9-1, Nijo-cho, Nara City, Nara Prefecture, Japan, #630-8577

パブリックな存在としての遺跡・遺産

— 平成24年度 遺跡等マネジメント研究集会(第2回)報告書 —

発行日 2013年12月21日

編集発行者 独立行政法人国立文化財機構
奈良文化財研究所
文化遺産部遺跡整備研究室
〒630-8577 奈良県奈良市二条町二丁目9番1号

印刷者 能登印刷株式会社
〒924-0013 石川県白山市番匠町293番地

ISBN978-4-905338-37-6